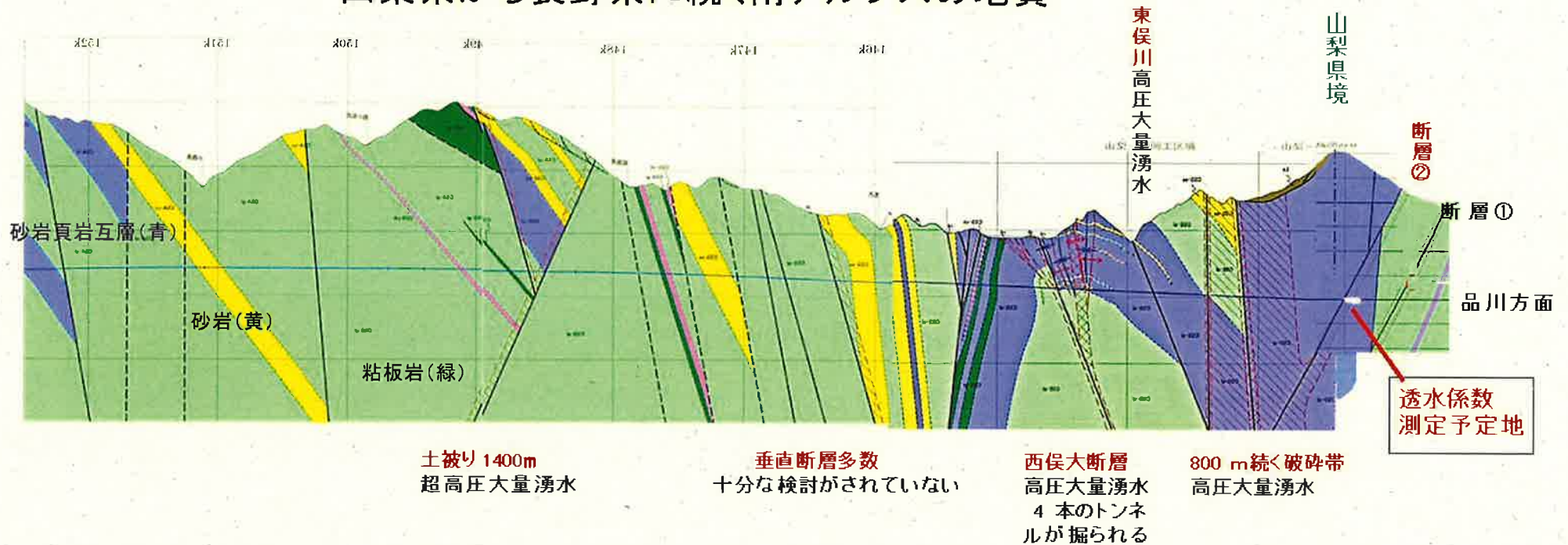


水問題は解決していない

山梨県から長野県に続く南アルプスの地質



1. 破碎帯の透水係数は水位低下や水減少を予測・計算する基本となる。破碎帯は断層などで粉々に碎けており、水が通りやすく、透水係数は大きくなるはずであるが、固い岩盤と同じ小さな数値で計算されている。実測値で計算すれば100倍にも1000倍にもなりうる。これまでも測定されてこなかったからこそ、静岡県と専門家の監視の下で正確な測定をすることが今後のためにも最重要である。
2. 静岡県に入ると次々に高圧大量湧水が予想される地帯にぶつかる。しかも、十分な検討がされていないのが現状である。大量に水が失われてからでは取り返しがつかない。十分な調査検討が必要である。工事の見切り発車は許されない。
 - (1) 山梨県境から200mほど進むと、800mも続く破碎帯がある。大量の高圧湧水が心配されている。
 - (2) 東俣川直下にも断層・破碎帯があり、高圧大量湧水が予想されている。
 - (3) さらに西に進むと西俣大断層に行き当たる。ここには本坑、先進坑、干石斜坑、導水路トンネルの4本のトンネルが掘られる。断層のずれは150mにもおよび大量の高圧湧水が予想されている。
 - (4) さらに西に進むと垂直の断層や地層が並ぶ地点が続く、地質調査も十分でない。
 - (5) さらに西に進むと山が高くなり、土かぶりが1400mにもなる地帯に入る。JR東海の表現でも「超高圧大量湧水」が予想される。薬液注入で湧水を止めることも困難だというのが専門家の間でも常識となっている。